

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成31年2月7日 (2019.2.7)

【公開番号】特開2017-133629(P2017-133629A)
 【公開日】平成29年8月3日 (2017.8.3)
 【年通号数】公開・登録公報2017-029
 【出願番号】特願2016-15212(P2016-15212)
 【国際特許分類】

F 1 5 B 11/00 (2006.01)

F 1 6 K 3/24 (2006.01)

【F I】

F 1 5 B 11/00 D

F 1 6 K 3/24 D

【手続補正書】
 【提出日】平成30年12月20日 (2018.12.20)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 1】

次に、かかる構成の作動を説明する。

図 1 および図 2 は、パイロット弁 1 は、電磁石 4 A、4 B が非励磁で、パイロット弁体 5 をばね 6 A、6 B 力で中立位置 Z 1 に保持し、パイロット供給流路 P 1 を遮断し、第 1 パイロット負荷流路 A 1 と第 2 パイロット負荷流路 B 1 とをパイロット排出流路 R 1 に連通している。主弁 2 は、両作用室 9 A、9 B がタンク T に連通し、主弁体 8 をばね 1 0 A、1 0 B 力で中立位置 Z に保持し、主供給流路 P 2 を遮断し、第 1 主負荷流路 A と第 2 主負荷流路 B とを主排出流路 R に連通している。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

また、パイロット弁 1 が中立位置 Z 1 の状態で、他方の電磁石 4 B を励磁すると、パイロット弁体 5 がばね 6 A 力に抗して第 2 切換位置 Y 1 に切り、パイロット供給流路 P 1 のパイロット圧力流体が第 1 パイロット負荷流路 A 1 より、第 1 逆止め弁体 1 6 A を自由流で流れ、第 1 パイロット負荷流路 A 3、A 2 を経て第 1 作用室 9 A に導入され、主弁体 8 は第 1 作用室 9 A のパイロット流体の圧力に基づく作用力ではばね 1 0 B 力に抗して図 1 の右方向へ撓動する。このとき、第 1 作用室 9 B のパイロット流体は第 2 パイロット負荷流路 B 2 より、弁座 1 9 B に着座して閉じている第 2 逆止め弁体 1 6 B の絞り孔 1 8 B を制御流で流れ、第 2 パイロット負荷流路 B 3、B 1 を経てパイロット排出流路 R 1 よりタンク T に導出される。このため、主弁体 8 は絞り孔 1 8 B での制御流れにより緩速で撓動して第 1 切換位置 X に切換る。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 7 】

そして、パイロット弁 1 の電磁石 4 B を非励磁にすると、パイロット弁 1 は中立位置 Z 1 に復帰し、主弁 2 の第 1 作用室 9 A をタンク T に切換連通する。主弁体 8 はばね 1 0 B 力により図 1 の左方向へ復帰摺動し、第 1 作用室 9 A のパイロット流体は、弁座 1 9 A に着座して閉じている第 1 逆止め弁体 1 6 A の絞り孔 1 8 A を制御流れで流れ、タンク T に導出される。このため、主弁体 8 は絞り孔 1 8 A での制御流れにより緩速で摺動して中立位置 Z に復帰する。